

事業名 ^{とやのがた}鳥屋野潟公園総合スポーツゾーン整備事業

環境との調和をテーマとした計画のもとに、多量に使用する造成盛土材や自然石は他工事から流用、また新工法の採用とともに伝統技術の継承を目指し、住民参加と工事の安全に配慮した大規模な公園事業

受賞機関 新潟県鳥屋野潟公園建設事務所

事業実施期間 平成4年6月10日～平成10年3月31日

事業費 55,000百万円

技術等の特徴と評価

園内の石積に城壁石積工法を採用するなど伝統技術を継承していることや自然生態園に粗朶工法を試みた。その結果、自然との調和を図られ、都市部の公園にふさわしい景観のある公園となった。また、計画にあたって住民の積極的な参加を図っている。

事業の概要と効果

環日本海の玄関、日本海側の拠点都市を目指し、港湾、空港、高速交通体系の交わる新潟市において、21世紀に対応した都市機能の強化を目的に、都市に近接した潟としては国内有数の鳥屋野潟の大きな自然財産と共生を図りながら、鳥屋野潟南部地区の開発計画(270ha：4ゾーン)は下記のとおり策定した。

具体的には

- 鳥屋野潟公園は約100haの水面を有する鳥屋野潟を囲む公園で、潟では250種の植物、90種の鳥類、20種の魚類が生息する自然の恵まれた環境にある。計画の基本テーマを「人間・スポーツ・環境」とし、自然環境に配慮した各種施設の配置やデザインコンセ



自然生態園

プトに配慮し計画した。

- 新潟の顔にふさわしい空間創りを求め、入口広場(全国都市緑化フェアメイン会場)にコンクリートの直線と鉄骨の緩やかな曲線を組み合わせたソフト感のある列柱廊を、また、県道で分断された北側と南側地区を結ぶ、県道橋の両側面には曲線を取り入れたバイザーを配し、白鳥をイメージした公園のシンボルを作った。

また、伝統技術を次世代に継承し自然に配慮するため、自然生態園の池の中島には生態系保全のための粗朶工法や、天然石の石積みに城壁積み工法を施した。石積みには、他県から熟練技術者を招き地元技術者との技の交流を図った。

- 公園敷地は海拔-1.3mの低地であるため、河川、農地、港湾、建築工事などと連携し、55万m³にのぼる資源の有効活用を行った。さらに、8,000tを使用した天然石は、平成7年の災害で発生した多量の土石を県南の姫川から運搬して使用した。
- かつて、この地域は海拔-1m以上の低湿地帯で、稲作には舟を利用しなければならない劣悪な状況であったが、昭和23年に東洋一といわれた栗の木排水機場の完成により約1.5mの内水位の低下と水田の灌漑化が実現した。現在は水と緑・野鳥の楽園として人々に安らぎを与える都市近郊の大きな農村集落となっている。このような歴史的な経緯を持ち住民の愛着の強い100ha余の土地を買収するにあたり、住民の理解を得るためたび重なる話し合いを行い、事業の意義をアピールし、計画に住民の意向を取り入れるなど相互理解を深めることにより解決することができた。

都市公園としては、水と緑に恵まれたオアシス作り、ライトアップなどアメニティゾーン形成、また、運動広場や芝生広場等は健康増進・心の安らぎの場となっている。

さらに、道路横断地下道にはエレベータのスペースを確保し、公園施設も身障者対応を考慮するなど福祉にも配慮した構造となっている。

地元住民の理解と自主的な協力が得られることを目指し、工事計画等にも住民の意向を広く反映させるため、地域の特性や動植物、歴史文化を発注者・受注者・地元住民の参加のもとシンポジウムを開催して学び、自然生態園の植生や記念モニュメントのテーマ、橋名板製作等に協力を得ることができた。

受賞賛助会員

オリエンタル建設(株)北陸支店、日本舗道(株)新潟支店、ピーシー橋梁(株)新潟営業所、(株)福田組新潟営業所、福田道路(株)新潟営業所、(株)本間組新潟営業所